

(様式第1号)

2019年4月26日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領域名：マネジメントに関する領域  
科目名：介護業務の標準化と質の管理  
単位数：2単位  
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人静岡県介護福祉士会  
団体事務所の所在地：〒420-0856  
静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階  
電話：054-253-0818  
FAX：054-253-0829  
E-mail：shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：一般社団法人静岡県介護福祉士会  
申請責任者：会長 及川 ゆり



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	マネジメントに関する領域	
科目名	介護業務の標準化と質の管理	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自職場において実践されている介護業務を整理し、サービスの質の評価と改善に向けた検討を行うことができるようにする</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービスの質の評価の枠組みに関する基礎的な概念について、概説できる。</li> <li>・ プログラム評価の考え方について概説できる。</li> <li>・ 論理的思考に基づいて実践を整理・記述することができる。</li> <li>・ 上記を踏まえたうえで、自職場の実践を科学的・客観的に記述、評価し、サービスの質の改善に向けた検討、業務の標準化に向けた実践の基準づくりや実践の組織の検討を行うことができる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヒューマンサービスの特性</li> <li>○ サービスの質の評価の枠組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストラクチャー、プロセス、アウトカムの考え方</li> <li>・ プロセス評価とアウトカム評価</li> <li>・ 技術的部分（科学的根拠）と対人関係的部分</li> <li>・ 既存の「評価」の意味と意義（第三者評価、報酬の加算・減算など）</li> </ul> </li> <li>○ 実践の記述と分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム評価の考え方（インパクト理論、プロセス理論、フィディリティ評価等）</li> <li>・ 経験学習に基づく実践の言語化、構造化、抽象的概念化、（演習含む）</li> <li>・ 論理的思考に基づく自職場実践の記述と構造化、評価と改善策の検討（課題学習と演習）</li> </ul> </li> <li>○ 介護業務の標準化と管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対人援助における標準化の意味、サービス標準、ケアミニマム、ルール・ロール・ツールの整備</li> <li>・ 介護業務基準、業務と実践の捉え方（演習含む）</li> <li>・ 指導的立場にある者の職務（内省支援、業務支援、精神支援等）、学習する組織の重要性</li> <li>・ 可塑性を行動レベルではなく</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前課題①（3時間） 自組織におけるサービスの質を評価する仕組みと効果、課題について、レポート（A4、1～2枚程度）にまとめる。</li> <li>○ 事前課題②（3時間） 自組織における既存のマニュアルや手順書について総点検し、感じたこと、考えたことをレポート（A4、1～2枚程度）にまとめる。</li> <li>○ 講義 「福祉サービスの特性と質的評価」（4時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製造業等によって生産される有形物と無形のサービスを比較し、サービス、介護・福祉サービスにはどのような特性があるかについて解説する。</li> <li>2. 福祉サービスの質的評価に用いられる評価の3次元（ドナベディアンモデル：ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価）、特にプロセス評価、アウトカム評価の有効性に関する重要性について解説する。</li> <li>3. 既存の「評価」（指導監査、介護報酬、福祉サービスの第三者評価、外部評価等）の意味と意義について解説する</li> </ol> </li> <li>○ 演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「評価の実際」（2時間） 講師が提示した事例をもとに、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解するとともにプロセス評価とアウトカム評価の利点と課題について議論し整理する。</li> <li>2. 「自組織の評価システムの評価」（2時間）</li> </ol> </li> </ul>

思考レベルに求めるマニュアルや手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方（演習含む）

事前課題①を元に自組織における評価の仕組みを第三者の視点で評価し合う。

○講義

「実践の構造的記述と分析」（3時間）

実践の質向上のためには業務標準化とSDCAサイクル、業務改善のためにPDCAサイクルを実践する必要がある。また、当該プロセスを遂行する上で、実践の構造的な記述（言語化、抽象的概念化、構造化）が欠かせないことを解説する。また、実践の構造的な記述の例としてのマニュアル（思考レベルでの可塑性の実現を意識した）や手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方について解説する。

○事前課題③（3時間）

プログラム評価について自己学習した上で、自組織内の特定の取り組みについてプログラム評価の視点を用いて評価し、レポート（A4、1～2枚程度）にまとめる

○講義

「プログラム評価による評価の実際」（2時間）

実践の構造的な記述をする上で有益なプログラム評価の考え方を解説する。

○演習

「自組織の取り組みを評価する」（2時間）

グループ（4～6人）単位で、各自が提出した事前課題③の（プログラム評価の視点での）適切性を検討する。

個別具体的な実践事例を起点としながら、事例を俯瞰するような管理的な視点で記載することが、サービスの標準化、業務基準、ケアミニマムの作成につながることを理解する。また、当該プロセスを通して経験学習の有効性の理解を促進する。

○講義

「評価項目の作成と質の管理」（3時間）

フィディリティ評価、インパクト評価、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。

規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。

○事後課題①（3時間）

2日目の講義・演習を踏まえ、事前課題③でまとめた「自組織内の特定の取り組みの評価」に関して修正を行うとともに必要な評価項目を付加し、当該評価項目を用いた実践の改善のために必要な組織づくり計画をまとめる。

研修方法

- 集合研修
- 課題学習

	<p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p> <p>○課題学習は事前課題①～③（詳細は上述）、事後課題①（詳細は上述）を課し、レポート提出してもらい、担当講師が評価する。事前課題①②は初回集合研修前に提出。事前課題③は第二回集合研修前に提出。</p>
研修時間	30 時間（集合研修 18 時間、課題学習 12 時間）
修了要件	<p>全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻又は早退について 30 分を上限として認める。（レポート課題あり）</p> <p>以下、①5 割、②5 割として、100 点満点中 80 点以上を A 評価、70～79 点を B 評価、60～69 点を C 評価とする。D 評価の場合は再試験を行う。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>①サービスの質の評価の視点、具体的な方法、実践の記述と分析方法、介護業務の標準化と管理に関する基礎的知識、要点の理解度を確保するための筆記試験（25 問、50 点満点）</p> <p>②事後課題は、50 満点で評価する。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること。</li> <li>・修士課程を修了している介護福祉士であることが望ましい</li> <li>・介護福祉士として指導的立場で 5 年以上の経験があり、実践の評価と改善に取り組んでいる者が望ましい</li> <li>・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> </ul>
(2) 受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有する者であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I 類を修了していること。</li> <li>・ ユニットリーダー又はサービス提供責任者以上の職歴が 3 年以上の者が望ましい。</li> </ul>
修了評価	<p>修了評価は以下により行う</p> <p>1. 筆記試験（25 問、50 点満点）</p> <p>サービスの質の評価の視点、具体的な方法、実践の記述と分析方法、介護業務の標準化と管理に関する基礎的知識、要点の理解度を確保するための筆記試験を実施する。</p> <p>2. 事後レポート課題（50 点満点で評価）</p> <p>本講義で学んだことを用いて、事前課題③でまとめた「自組織内の特定の取り組みの評価」に関して修正を行うとともに必要な評価項目を付加し、当該評価項目を用いた実践の改善のために必要な組織づくり計画（A4、1～2 枚程度）をまとめる。</p> <p>3. 上記 1 を 5 割、上記 2 を 5 割として、100 点満点中 80 点以上を A 評価、70～79 点を B 評価、60～69 点を C 評価とする。60 点以下の場合はビデオ学習による補講を行った上で、別途課されるレポート（リスクマネジメントについて A4 用紙 1 枚にまとめる）を提出する。</p> <p>なお、集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。</p>
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40 名（講師 1 名）演習時も同じ講師が行う。ファシリテーター 2 名程度とし、認定介護福祉士又は資格取得後 10 年以上の介護福祉士とする。
開催場所（都道府県）	静岡県総合社会福祉会館シズウェル（静岡県静岡市葵区駿府町 1-70）

## コマシラバス（2日間）

### 科目【介護業務の標準化と質の管理】

1日目【講義・演習9時間】

※本科目に関しては1時間を45分と換算します。

区分	科目名	時間	内容	
1コマ目	介護業務の標準化と質の管理① 「ヒューマンサービスの特性」 (講義)	9:30~11:00	90	製造業等によって生産される有形物と無形のサービスを比較し、サービス、介護・福祉サービスにはどのような特性があるかについて解説する。
	休憩	11:00~11:10		
2コマ目	介護業務の標準化と質の管理 「サービスの質の評価の枠組み」(講義)	11:10~12:40	90	・福祉サービスの質的評価に用いられる評価の3次元（ドナベディアンモデル：ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価）、特にプロセス評価、アウトカム評価の有効性に関する重要性について解説する。 ・既存の「評価」（指導監査、介護報酬、福祉サービスの第三者評価、外部評価等）の意味と意義について解説する
	昼食休憩	12:40~13:40		
3コマ目	介護業務の標準化と質の管理① 「評価の実際」(演習)	13:40~15:10	90	講師が提示した事例をもとに、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解するとともにプロセス評価とアウトカム評価の利点と課題について議論し整理する。
	休憩	15:10~15:20		
4コマ目	介護業務の標準化と質の管理① 「自組織の評価システムの評価」(演習)	15:20~16:50	90	・事前課題①を元に自組織における評価の仕組みを第三者の視点で評価し合う。
	休憩	16:50~17:00		
5コマ目	介護業務の標準化と質の管理② 「実践の構造的記述と分析」 (講義)	17:00~17:45	45	実践の質向上のための業務標準化とSDCAサイクル、業務改善のためのPDCAサイクルの方法、当該プロセスを遂行する上で、実践の構造的な記述（言語化、抽象的概念化、構造化）が欠かせないことを解説する。

2日目【講義・演習9時間】

区分	科目名	時間	内容	
1コマ目	介護業務の標準化と質の管理② 「実践の構造的記述と分析」 (講義)	9:30~11:00	90	実践の構造的な記述の例としてのマニュアル（思考レベルでの可塑性の実現を意識した）や手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方について解説する。
	休憩	11:00~11:10		
2コマ目	介護業務の標準化と質の管理② 「プログラム評価による評価の実際」(講義)	11:10~12:40	90	実践の構造的な記述をする上で有益なプログラム評価の考え方を解説する。
	昼食休憩	12:40~13:40		
3コマ目	介護業務の標準化と質の管理② 「自組織の取り組みを評価する」(演習)	13:40~15:10	90	グループ（4～6人）単位で、各自が提出した事前課題③の（プログラム評価の視点での）適切性を検討する。
	休憩	15:10~15:20		
4コマ目	介護業務の標準化と質の管理② 「評価項目の作成と質の管理」 (講義)	15:20~16:50	90	フィディリティ評価、インパクト評価、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。
	休憩	16:50~17:00		
5コマ目	全体のまとめ（講義）	17:00~17:45	45	

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年12月12日
	② 2020年12月19日
	③
開催場所 (会場)	① 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町1-70)
	② //
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○企業業務の標準化と質の管理 落合 克能氏</p> <p>【最終学歴】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成20年3月 聖隷クリストファー大学大学院社会福祉学研究科 (博士前期課程) 修了</li><li>・平成28年3月 聖隷クリストファー大学大学院社会福祉学研究科 (博士後期課程) 単位取得後満期退学</li></ul> <p>【職歴】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平成8年6月 (社福) 八生会特別養護老人ホーム豊田一空園就職 (生活相談員、介護主任等) ※平成15年7月退職</li><li>・平成16年4月 (社福) 萬松会特別養護老人ホーム萬松の里就職 (主任生活相談員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長等) ※平成18年3月退職 (退職後1年間非常勤契約)</li><li>・平成23年4月 (学法) 聖隷学園聖隷クリストファー大学社会福祉学部に教員として就職 (現在に至る)</li></ul> <p>【地域貢献活動】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(NPO) えんしゅう精神保健福祉をすすめる会 監事</li><li>(社福) 昂会 監事</li><li>(社福) 和光会 理事</li><li>(社福) みどりの樹 評議員</li><li>(社福) 七恵会 評議員 ※その他</li></ul> <p>【主な著書】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・『グラウンデッドセオリー』ミネルバ2017 (共著)</li><li>・「特別養護老人ホームにおける居住支援としてのソーシャルワーク」『ソーシャルワーク研究』Vol139, No3, pp. 31-38. (相川書房2013.10)</li></ul>
	担当する講義等

	事後課題評価 落合克能氏 経歴等は同上
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(非常勤:6名) 委員会事務局(担当事務局員:常勤2名・非常勤2名)  認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連間や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合せ先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	平野 美智子
機構問合せ先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合せ先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合せ先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	平野 美智子
受講問合せ先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合せ先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ(会長)
管理担当者氏名	平野 美智子(事務局長)